

## ウェアラブル・ユビキタスワークショップの原稿サンプル 上新振留夫, 指木多須美 (塚本短期大学)

### 1 研究の背景と目的

ユビキタスウェアラブルワークショップ(以下, UWW)では, 読み易い冊子を出版するために, 著者の方々の協力が不可欠である. そこで, 本フォーマットを使用することを強く推奨している. このフォーマットに文章を流し込むと, あら不思議, 誰でもステキな体裁になるのである. だからお願いします, 編集作業を効率化させるために, 貴方の清き一手間を. というわけで, 本フォーマットの目的は, UWW の成果を記録に残し, 当日の発表内容を手軽に理解するために統一的な論文形式を提案し, 実装することである.

### 2 これまでの研究内容

本章では, これまでの UWW の歴史について述べる.

UWW は, 大学と企業との垣根を取り払い, ユビキタスウェアラブルの未来について語り合い, 学生間の交流を深めるために開催された. 本ワークショップは, 2007 年以來毎年開催され, 今年で 6 回目となる. 2007 年 12 月 21, 22 日にシーサイドホテル舞子ピラ神戸で行われた第 1 回以降, 会場は毎年変更されてきたが, 第 5 回は 2011 年 12 月 18, 19 日に再び舞子で行われた. UWW では, 出席者全員でワークショップを盛り上げることを原則としており, この伝統は今も受け継がれている. 第 1 回では, 第 1 発表者は 47 人, プロシーディングは 48 ページだった. 第 1 回 UWW の詳細は文献 [?] で言及しており, ここでは第 5 回 UWW について述べる. 第 5 回 UWW の表紙を, 図??に示す. この年は, 2 日間で計 52 人が密度の濃い発表を行った. 学生は緊張した面持ちで発表を行い, 企業の方はウェアラブルの最新動向について報告を行い, 先生方は研究者として, ユビキタスウェアラブルの将来について熱く語った. すべての参加者がユビキタスウェアラブルに対する情熱をぶつけ合った発表会は, 数多くの驚きと笑いを巻き起こし, 閉幕した.

また, 神戸ルミナリエの中で開催された第 4 回以外の UWW はすべて合宿形式で行われ, ナイトセッションが企画された. ナイトセッション 1 では, 企業の方による実践的なワークショップが開催され, 学生たちは新たな知見に出会い, 親睦を深めた. なお, 深夜に開催されたナイトセッション 2 については, 諸々の事情で今回もやはり言及しない.

### 3 コマンド

- 箇条書きでは書けない, 夢がある.
- だって夢は区切るものじゃない, 続くものだからさ.

表??のように表を作成してもよい.

表 1: カセット性能の比較

カセット	利用例
ノーマル	TV にラジカセ付けて録音したらオカンの声
ハイボジ	テープが絡まって鉛筆で必死に巻き直し
メタル	好きなあの子への自作ラブソングを録音

論文の理解を助けるための図表を適宜入れること.



図 1: ユビキタスウェアラブルワークショップ 2011 表紙

### 4 おわりに

本研究では, UWW の成果を記録に残し, 当日の発表内容を手軽に理解するために, 統一的な論文形式を提案し, 実装を行った. また, これまでの UWW の歴史を紹介し, UWW で今後生まれる予定の黒歴史の一端を暗示した.

今後の予定は, UWW のプロシーディングで本フォーマットを使用していただき, UWW の発表で活発な議論が行われることを妄想し, UWW の発展を祈念することである.

### 参考文献

- [1] ユビキタスウェアラブルワークショップ 2011 プロシーディング, (2011).
- [2] Buruo, U., and Tasumi, Y.: New Wearable Generation, Trans. Hogehege, Vol. 7, No. 7, pp. 777-788 (2000).
- [3] 上新振留夫, 指木多須美: ウェアラブル環境における HMD を用いたすれ違い出会い通信システムの設計と実装, 穂下穂下処理学会論文誌, Vol. 38, No. 2, pp. 111-123 (2009).
- [4] 上新振留夫, 指木多須美: ウェアラブル環境における HMD を用いた残り寿命表示システムの実現, 穂下穂下処理学会論文誌, Vol. 40, No. 1, pp. 11-20 (2011).
- [5] 上新振留夫: ウェアラブルよ, 永遠なれ, 骨川書房 (2008).
- [6] 上新振留夫: ウェアラブル, お前もか, 骨川書房 (2010).
- [7] 上新振留夫: 部屋とウェアラブルと私, 骨川書房 (2012).